

開催中

# 平成28年度 松岡映丘画稿展 ～線で描いた古典文学～

記念館では、5月31日(火)まで、松岡映丘画稿展を開催しています。  
本展のテーマは、古典文学です。  
映丘が繊細な線で描いた文学の世界をお楽しみください。



「桃太郎」

### 作品介绍

桃から生まれた桃太郎は、おじいさんとおばあさんに育てられました。桃太郎はおばあさんにもらったきびだんごを持って鬼退治に出かけます。その途中で出会った、キジ、イヌ、サルをお供にします。この作品は、桃太郎がイヌにきびだんごを渡している場面を描いています。

# 記念館新聞



福崎町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原  
1038の12  
電話：0790-22-1000

## 國男の 桃太郎研究

「桃太郎」は、國男も関心があり、『桃太郎の誕生』という本を書いています。この本には、「桃太郎の誕生」をはじめ、9編の論文が収められています。

國男は、近世から近代にかけて童話となった「桃太郎」という話が、もとはどのような話であったのかを考えています。桃太郎や瓜子姫など、昔話に登場する小さな姿の主人公たちに共通するものを考え、それらを比較して検証しています。



『桃太郎の誕生』  
(三省堂 昭和8年)

井上通泰が、和歌に出会ったのは、父である操が教えてくれた独学の方法からでした。そして、医者となるために東京へ出て、予備門で学んでいた17歳のころに、國重比古に入門をし、本格的に和歌を学び始めます。その後、23歳で江戸時代後期の歌人である香川景樹の『桂園一枝』を読み、事蹟の研究をするほど熱中し、桂園派の門人である松波遊山から歌の添削を受けるようになりました。

## 和歌との出会い



井上通泰生誕150年

その3

このように通泰は、医学よりも和歌、さらには歴史にも関心を深めていきました。そのため、養父である碩平は心配し、長兄である鼎を通じて、医学以外の学問をやめるように指示を出すほどであったといわれています。通泰は医学の研究と眼科医としての活動を続けながら、生涯をかけて和歌をつくり、和歌の研究を続けていきました。



井上通泰大人講演『和漢朗詠集和歌解』巻一  
(歌学研究会 明治36年)



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間

9時～16時30分

(入館は16時まで)

☆休館日

月曜日、祝日の翌日

12月28日～1月4日

☆入館料

無料

辻川山公園に天狗が飛来!  
突如、記念館前にそびえ立った鉄筋柱に、期待がふくらみ、完成を待っていました。民俗辻広場まつりでは、河童像につぐ新たな仕掛けとして、「妖怪小屋」から飛び出る「逆さ天狗」が「お目見えしました」。  
天狗像の原作者は「髪の毛など質感の表現が難しく、吊るして動かすという難問に対し、天狗像の強度や軽量化など解決すべき点が多かった」と話しています。  
天狗像は、9時15分から18時15分までの間、毎時15分と45分に小屋の中から出現します。「強風時は休止の場合あり」



天狗が手にしているものは何でしょうか

館日記